



かまくら認知症ネットワーク

題字 古川茂明

- 会報（隔月刊）6号
- 2012年9月1日発行
- 編集発行人
一般社団法人かまくら認知症ネットワーク
〒247-0056鎌倉市大船1-22-2-402号
- TEL0467-47-6685
- 郵便振替
00240-8-140587
- 編集責任者 稲田秀樹

認知症ケアでつながる人々 稲田秀樹

かまくら認知症ネットワーク代表理事
ケアサロンさくら 施設長

今泉台4丁目の商店街は昭和40年代に建てられた鉄筋ブロック造りの5軒長屋である。建物の外壁は日焼けして古いペンキが黄ばんでいる。ケアサロンさくらの開設前、地域に開かれたデイサービスのうわさを聞いて様々な人が見学に訪れた。知人の齋藤眞子さんたち(写真上)は今泉台地区と同じく高齢化率が40%超の地区から見学に来た。ただ見学するのではつまらないから建物の掃除でも手伝ってもらって、協力者になってもらおうと考えた。壁を拭いたり草をむしったりしながら、建物の大家さんからたくさんの思い出話を聞かせてもらったことや、地域の人たちの協力があって助かっていることなどを話した。



見学に来た齋藤さんたち

開設前、改修工事の打ち合わせ会合には必ず地域住民の出席があった。建物の改修プランは今泉台在住の認知症当事者の元建築士の方に依頼して作ってもらった。食器や衣類や家具は地域の人に呼び掛けて寄付を募った。ある朝来てみると、玄関に衣類の入った紙袋が置いてあって、「お役立て下さい」と書いたメモが貼ってあったりした。齋藤さんたちが見学に訪れた2日後、小柄な女性訪ねてきた。女性の様子から相談があるようなのはすぐわかった。

女性は奥山葉子さん、ケアサロンさくらから歩いて3分ほどのところに夫と二人で暮らしていた。夫の奥山信一さんは当時91歳、他の施設を利用していたが度々転倒し骨折を繰り返していた。とにかくご本人に会ってみることにした。ご自宅へ向うと玄関に大きな夜空の写真が飾ってあった。奥山さんご夫妻は天体の写真を撮影するのが趣味だった。夫の信一さんの天体写真はプロ級の腕前なのだという。ご夫妻が今泉台に移り住んだのは昭和43年だ。その頃の今泉台の空はとても澄んでいて、よく夫と一緒に星空を眺めたものだと言葉さんが話してくれた。



ケアサロンさくらのダイニング

夫の信一さんは大柄だが穏やかそうな人だった。現役の頃は空調設備の設計技師をしていた。優しそうな笑顔が印象的な紳士だった。家のなかの手伝いも進んでしてくれたという。食事ですった食器などは自分で下げなければ気が済まないところがあった。ケアサロンさくらの開設初日、信一さんは昼食が終わるとお盆を持ってよろよろと歩き始めた。《自分で片づけたい》という信一さんの意向を尊重しよう、と朝のミーティングで話したばかりだった。職員に見守りをするよう指示した。新人の職員が信一さんの後について歩く。キッチンにお盆を置いてくれてひと安心と思ったのもつかの間だった。笑顔で「では、これで帰ります」という。

★ラクガキを消すプロジェクトの参加希望者を募集します。作業は主に週末(土曜、日曜)に行います。認知症の方でボランティアをする意欲のある方、若年性認知症の方で身体はまだまだ動かせる自信のある方、認知症の方に限らず、活動に共感し協力を希望する方からの連絡をお待ちしております。電話090-7810-4033 稲田まで。

～次号予告～

- ☆第8回かまくら散歩
フラワーセンター大船植物園を散策、高校生記者によるレポートです！
- ☆第1回認知症医学講座「認知症と薬」
横浜市大精神医療センターの小田原先生を招いて認知症と薬を学ぶ研修会レポート！
- ☆地域の動き、認知症サポーター養成講座の報告など

★会報発行にあたり題字を当会会員で若年性認知症の古川さん(知的障害のある茂明君)にお願いしました。また、毎号イベントの写真はケアマネジャーの出口慎一氏より提供頂いています。(稲田)

9月・10月の予定

9月 8日(土)	認知症相談	鎌倉市役所
9月 12日(水)	認知症医学講座「認知症と薬」	鎌倉市福祉センター
9月 26日(水)	運営会議	NPOセンター鎌倉
9月 30日(日)	第8回かまくら散歩	フラワーセンター
10月 13日(土)	認知症相談	鎌倉市役所
10月 24日(水)	運営会議	NPOセンター鎌倉

鎌倉市との協働事業

認知症相談事業(予約制)

専門職の有資格者が症状の背景や介護の仕方についてわかりやすく説明！

・・・かまくら認知症ネットワークが相談員を派遣しています・・・

9月8日(土)
鎌倉市役所
13:30~16:30

10月13日(土)
鎌倉市役所
13:30~16:30

お問合せ・お申し込み:鎌倉市役所 市民健康課
でんわ 0467-23-3000 内線 2678(受付 8:30~17:15)

入会ご希望の方へ

FAXで入会申込書希望と書いてお送り下さい

～資料をお送りいたします～

FAX 0467-39-5490

一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク 事務局
[問合せ先 TEL 0467-47-6685]

会員種別 年会費

1. 個人正会員 3000円
 2. 個人賛助会員 2000円(一口以上)
 3. 団体賛助会員 2000円(一口以上)
- ※申込書送付後、年会費をお振り込みください。
郵便振込口座 00240-8-140587
口座名 一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク



『ラクガキを消すプロジェクト』に立場を超えて集結！ 私たちも参加しましたよ♪

8月11日、認知症の人、障害のある人、介護の専門職や市民、行政職員、鎌倉学園インターアクト同好会の生徒らが参加してラクガキを消すプロジェクトが実施されました。

このプロジェクトは以前より鎌倉市でラクガキをなくす活動を行っている「キープ鎌倉クリーン推進会議」と「かまくら認知症ネットワーク」の共催で、ラクガキの防止と環境保全活動を通じて認知症人や障害を持つ人たちの社会参加の機会を提供する目的で行われました。

鎌倉市岩瀬のガソリンスタンド跡地に、朝早くから壁一面に書かれたラクガキを消して町をきれい

にしようとした立場の異なる市民が集結しました。9時の作業開始時には松尾崇鎌倉市長も駆けつけてくれました。落書き消しに使うペンキや用具類は鎌倉市環境保全課から提供をうけました。

鎌倉学園インターアクト同好会顧問の田島教諭は「環境問題と福祉の問題を共通の視点から考えさせてくれる貴重な機会を与えていただいた」と話してくれました。ラクガキを消し終わると、すっかりきれいになった壁面をバックにみんなで記念撮影。「今後も協力しますよ!」という声もあがり、笑顔のうちにラクガキを消すプロジェクトは終了しました。(IN) ※写真提供出口慎一氏



「落書きゼロのまちづくり」高田晶子(キープ鎌倉クリーン推進会議 代表)

皆さんはテレビで事件現場から中継される画面の中に、落書きが写っているのをご覧になったことがあるでしょうか。落書きは地域荒廃のバロメーターともいわれ、放置すると犯罪が増えるといわれています。2002年頃鎌倉市内は、落書きだらけでした。《キープ鎌倉クリーン推進会議(略称KKC)》が落書き防止に取り組んで今年で10年になります。その後、私たちの活動の成果もあって市内の落書きは激減していますが、いまでも少数の常習者による落書きが後を絶ちません。

去る7月20日鎌倉市役所の会議室で協働事業報告会(鎌倉市と市民活動団体との協働事業報告会)があり、KKCも「落書きのないまちづくり」について一年間の活動報告を行いました。報告会の終了後、同じく協働事業の報告者で、「認知症相談事業」報告を行った《かまくら認知症ネットワーク》代表の稲田さんから声を掛けられました。「落書きはどうやって消すんですか?」という質問でした。質問に答えたり、いろいろ話を伺っているうちに、「若年性認知症など、体力のある人の社会参加の場が欲しいので、一緒に取り組みたい」と聞かされました。

8月11日、岩瀬の廃業したガソリンスタンド建物へ鎌倉市内で落書きを書き続けている常習犯が大量に書いた落書きを一斉に消しました。落書きは書かれたら直ぐ消すことが鉄則なのです。参加者は《かまくら認知症ネットワーク》の会員やスタッフ、市民、それに鎌倉学園高校のインターアクトクラブの生徒さんと顧問の先生、キープ鎌倉クリーン推進会議会員の総勢15人。良いことをした後の皆さんの顔は達成感に満ち満ちて実に輝いていました。



センター方式地域型基礎研修 鎌倉市開催

6月24日、7月22日の2日間、NPOセンター鎌倉の会議室にて認知症ケアの資質向上と多職種協働を目的に、認知症の人のためのケアマネジメント「センター方式地域型基礎研修」が行われました。

1日目(6月24日)の研修では、これまでの認知症ケアの振り返りとこれからの認知症ケアの在り方、認知症の本人の視点について学んだ後で参加者がグループワークを行いました。グループワークでは対応の難しさや現場でのケアの困難さについての率直な話し合いが行われました。その後、センター方式のシートについて説明を受けたあとで、実際にシートに記入する演習が行われました。参加者の皆さんには2日目の研修までに自分に課したチャレンジ課題(本人本位の視点に立ったケアを実践しシートに記入する)の宿題が与えられました。

2日目(7月22日)の研修では、参加者が現場で取り組んだことの振り返りを行い、またグループワークでそれぞれの取り組みについて報告をしあいました。中には1日目と2日目の約1か月の間に、利用者さんが入院してしまったケースもありましたが、現場でのセンター方式の展開中に周辺症状の状態が改善するケースも報告されました。

受講生でマッサージ師の中空隼人さんは、研修の最終日に行われたアンケートで、研修全体を通じて気づきや今後に生かせる点があったと答えてくれました。中空さんはその理由を、「有料老人ホームに入居している認知症の人のケースでセンター方式を活用してみたところ、認知症の人の生活の背景や“思い”を意識するようになり、施設の職員やマッサージ治療院のスタッフ間での情報共有が大切なことがよくわかった」と記入してくれました。

2日間通して参加した人には研修の最後に修了証が手渡され、「サービス提供者の都合を優先するケアではなく、本人の視点に立ったケアを実践してください」と講師の稲田さんからメッセージがありました。計12時間に及ぶ研修でしたが研修を受ける前と受けた後とは、利用者さんへの対応に変化があったとの声が多く聞かれました。(SA)



グループワークによる演習



シートの説明をする参加者



第1回認知症医学講座の開催へ向けて 「認知症と薬」アンケート集計結果より



かまくら認知症ネットワークでは、第1回認知症医学講座の開催へ向けて「認知症と薬」に関するアンケートを実施しました。講座は9月12日(水)18:30~20:30 鎌倉市福祉センターにて行われます。講師は横浜市立大学附属精神医療センター一部長の小田原俊成先生です。対象は介護従事者、介護家族などです。アンケートはかまくら認知症ネットワークの会員及び鎌倉市内の介護従事者、介護家族を対象に実施されました。以下、アンケート集計結果を一部抜粋も交えて報告させていただきます。

1. あなたについて→ 介護従事者 85% 介護家族 8% 一般市民 4% その他 3%
2. 介護従事者の職種→ ケアマネジャー 28% 管理者 28% 介護職員 22% 看護師 8% 相談員 4% その他 10%
3. 知りたいこと→ 薬の副作用について 50人 新薬の情報について 42人 周辺症状に用いる薬について 39人 アルツハイマー病の治療薬について 39人 抗精神病薬について 28人 その他 3人 (複数回答)
4. 困っていること→薬に関する知識が足りない 43人 副作用がどうかかわからない 43人 医師に尋ねる機会が少ない 22人 薬の管理ができない 22人 その他 6人(複数回答)
5. 自由記載欄より(抜粋)→ 「老夫婦 2人暮らしで服薬管理ができない(ケアマネジャー)」「薬について勉強し意見や提案ができるようになりたい(ケアマネジャー)」「新薬の詳しい情報がほしい(管理者)」「抗精神病薬の副作用が心配(管理者)」「副作用がどうかかわからない(相談員)」「服薬開始の時期について知りたい(介護職員)」「薬を飲み忘れること(介護職員)」「新薬の開発の現状(介護家族)」「抗精神病薬の副作用の問題(介護家族)」他にも多くのご意見を頂きました。皆様からのアンケートは認知症医学講座だけでなく今後の私たちの活動の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。(かまくら認知症ネットワーク研修部会)



地域の動き 『若年期認知症ハンドブック』 認知症のひと家族の会神奈川県支部

認知症のひと家族の会(神奈川県支部)が昨年から取り組んできましたフルカラー48頁の「若年期認知症ハンドブック」が7月22日に刊行されました。

近年、認知症介護が重要な問題として理解され、介護保険制度をはじめ社会的な対策が色々実施されてきています。認知症を巡る諸課題は、世代を超えてさまざまですが、若年期の認知症にまつわる問題は深刻です。家庭、経済、就労、子育て、介護環境などの様々な面で困窮するケースが多く、支援策の充実が必要で今後ますます拡大する問題です。

若年期認知症の本人・家族を支えるためには、早期発見・早期診断はもとより、診断後の生活支援がかか

せません。そして生活を支える手段は、公的なサービスだけでも、介護保険サービス、障害者福祉のサービスなど複雑多岐にわたっています。多くの方が、少しでも早く適切な支援に結びつくために若年期の認知症に対する正しい知識を持ち、公的サービス(社会資源)を上手に利用できる環境を整える必要があります。ハンドブックには縦割り行政の垣根を越えた情報がしっかりと掲載されています。問い合わせは認知症のひと家族の会神奈川県支部(電話 044-522-6801)まで。(TS)



地域の動き 『若年期認知症の本人・家族の集いと講演会』 認知症のひと家族の会神奈川県支部 川崎市

7月22日(日)認知症のひと家族の会・神奈川県支部主催の若年期認知症の集いに参加してきました。午前の部の相談と意見交換の会には若年期認知症本人と家族、約40名の参加がありました。午後の講演会は家族会埼玉県支部から招かれたお二人の講師で行われました。第一部は、以前「かまくら散歩」にも参加頂いたこともある佐藤雅彦さん(58歳、若年期認知症ご本人)の講演でした。第二部は、新井雅江さんの講演で、ご主人(昨年73歳で他界)を約22年間の介護した体験談でした。講演会場は立ち見席ができればかなりの満席状態でした。

佐藤さんは、発病の頃から現在に至るまでの約10

年間の闘病と自立生活の報告を軸に、現在ご自身が出来ていること、出来ないが工夫や支援があれば出来ることなどを語って下さいました。お話は具体的で説得力があり、勇気づけられた本人・家族が大勢いたのではないかと感じました。また新井さんは看取りまでの22年間の永く辛く厳しかった介護生活を、介護家族がたどる4つの心理ステップ(否定→混乱→割り切り→受容)に照らして話され、第4の心理ステップ「受容」に到達するには、本人との適正な関わり方を学び覚えることが重要だと話されました。いつもより長時間の集いでしたが、あっと云う間の一日でした。(TS)



地域の動き 『市民活動団体と鎌倉市による協働事業 事業報告会』 鎌倉市役所

7月20日(金)、鎌倉市役所 402 会議室に於いて、「平成23年度、市民活動団体と鎌倉市による協働事業 事業報告会」が開催され、協働事業を実施した6団体による報告が行われました。

「鎌倉市落書きのないまちづくり事業」の報告を行ったキープ鎌倉クリーン推進会議によると、協働事業の成果で市内の落書きは激減したものの、少数の常習者による壁面などへの落書きが後を絶たない現状があるとのことでした。

また「認知症相談事業」の報告を行ったかまくら認知症ネットワークによると、現在鎌倉市の高齢化率は27%台で、今後ますます高齢化は進むとのこと、市内

には高齢化率が40%を超えている地区があり、認知症支援の必要性は増加する一方との話がありました。そのほか障害者の就労支援に関する事業、子ども会館の運営事業など、福祉や環境、子育てに関する事業の成果について報告がありました。

いずれの団体も市民生活に関わりの深いテーマに取り組まれていました。報告会の終了後には、意見交換をする関係者の姿も見られ、市民活動団体同士の交流の場にもなっていると感じました。協働事業に関するお問い合わせは、鎌倉市地域のつながり推進課 電話 0467-23-3000 内線 2311 (IS)

